

平成29年度大学コンソーシアムやまがた第1回幹事会議事録

日 時：平成29年6月6日（火）15：00～16：05

場 所：ゆうキャンパス・ステーション及びテレビ会議

出席者：委員長 安田 弘法（山形大学）

副委員長 野村 真司（東北芸術工科大学）→代理：後藤 智

高橋 亘（山形県立保健医療大学）

奥山 卓郎（山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学）

大桃 伸一（東北文教大学・東北文教大学短期大学部）

委 員 柏倉 弘和（羽陽学園短期大学）

吉木 宏之（鶴岡工業高等専門学校）

神田 直弥（東北公益文科大学）→代理：山本 裕樹

藤原 茂樹（放送大学山形学習センター）

遠藤 隆弘（山形県）→代理：浜田 憲人

小林 正弘（山形県立産業技術短期大学校）

遠田 達浩（山形県立農林大学校）

菅原 邦生（山形工科短期大学校）

栗山 恭直（企画会議委員長／山形大学）

欠席者： 田畑 信二（山形県立産業技術短期大学校庄内校）

陪席者：伊藤 雅彦（山形大学教育・学生支援部長）

布施 一明（山形大学教育・学生支援部学務課長）

小座間優華理（山形県総務部学事文書課主任主事）

事務局：齋藤幸太郎、西田 靖子

会議に先立ち、事務局から新たに委員になった7名の紹介、代理出席者、陪席者及び過半数委員の出席による会議成立の報告があった。

続いて委員長から、大学コンソーシアムやまがたの目的、事業及び幹事会の役割について会則に基づき説明があった。

議題

【報告事項】

1 平成28年度事業報告について

事務局から、平成28年度事業報告について資料1に基づき以下の説明があった。

（説明要旨）

「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」について

- ・1の「高等教育山形宣言」プロジェクトは、山形大学3件、山形工科短期大学校1件、計4件が採択され、順調に実施された。
- ・「2 企画会議事業」について、(1)やまがた夜話は、平成28年度は延べ1,318人の

参加があった。(2)ビブリオバトルの開催は、10月22日に山形大学小白川図書館の主催で行われ、山形大学生5名のみの参加であった。(3)山形大学男女共同参画シンポジウムは、11月11日に米沢市で開催され100名の参加があった。(4)小学生を対象とした体験型学習の開催は、11月13日にゆうキャンパス・ステーションと駅西の芝ゾーンを使って「イヌワシふれあい体験」を開催し、小学生とその保護者24組48名の参加があった。(5)プロスポーツを活用した中山間地域活性化活動の開催は、2月18日に山辺町大字大蔵で行い、スタッフとして東北芸術工科大学生10名、山形大学教職員2名に協力いただいた。

- ・「連携事業」について、(1)単位互換の推進では、単位互換受講者数は延86人となった。また、「履修学生交通費支援制度」を利用した学生は30人であった。(2)大学等進学説明会は、13高校で開催した。(3)やまがた高等教育職業フォーラムは、8月21日に霞城セントラル1階アトリウムで12機関の参加を得て実施したが、低調な結果となった。
- ・「教職員の交流事業」について、広島市で開催された「全国大学コンソーシアム協議会総会」及び「全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」へ1名が参加した。
- ・「広報事業」について、広報パンフレットを4,300部作成し県内の高校及び加盟機関へ配布した。
- ・「受託事業」について、平成28年度末で終了した。28年度報告書及び5年間の最終報告書は各機関へ送付した。
- ・「協力事業」について、県が開催している「日本一さくらんぼ祭り」へ学生パフォーマンス・やまがたゆうキャンパスステージとして、学生募集の協力を行った。

以上

(主な意見交換等の内容)

特になし

【協議事項】

1 平成28年度収支決算(案)及び2 監査報告について

事務局から、平成28年度収支決算(案)について、資料2に基づき以下の説明があった。

(説明要旨)

- ・収入、収支表の一番左の欄は、前回幹事会及び平成29年3月23日の総会で承認された第一次補正後の予算としている。
- ・収入の欄では、受託事業収入は「山形人材育成委員会」の各委員会の欠席者の旅費及び謝金に残額が生じたため、山形大学に返金した108,192円を減額補正した。
- ・支出の欄で、項目1「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」では、企画会議事業で2月18日に開催の「雪中棚田サッカー大会」の清算が3月に行われ、9,411円を減額補正した。
- ・項目2の連携事業では、単位互換リーフレットの作成部数の増加で1,620円を増額

補正した。

- ・大学コンソーシアムやまがた運営費は、事務局運営共通経費で約7万円、事務局職員雇用経費で約6万円と合わせて131,900円を減額補正した。
- ・ゆうキャンパス・ステーション運営費は、事業推進費（消耗品等）で8,079円を減額補正した。
- ・大学間連携共同教育推進事業分の108,192円を除く減額分147,770円は予備費を増額補正した。
- ・収入決算額10,711,923円から支出決算額8,340,592円を差し引いた2,371,331円が29年度への繰越額となる。

引き続き、監査報告について事務局から以下の報告があった。

- ・平成29年5月19日に米沢栄養大学長の鈴木監事に、また、5月24日に山形県総務部長の柴田監事に監査いただき、資料3のとおり「適正である」旨の報告をいただいた。本件は6月13日開催の「総会」で監事から報告していただくことになっている。

(主な質疑応答の内容)

- ・この補正（第一次補正後予算額）というのは承認されているものなのか。（藤原委員）
→3月23日の総会で承認されたものである。（事務局）

以上の質疑応答ののち、平成28年度収支決算（案）及び監査報告について了承された。

3 平成29年度事業計画（案）及び 4 収支予算（案）について

事務局から、事業計画（案）について資料4に基づき、以下の説明があった。

(説明要旨)

- ・事業計画書1頁目の前文に昨年度まで「大学間連携共同教育推進事業を強力に実施していく」としていたが、本事業は平成28年度で終了したので削除している。また、29年度は事業評価を行うこととしている。
- ・大学コンソーシアムの顔となる事業において、1「高等教育山形宣言」プロジェクトは、学生が企画し実施する事業であることから、29年度も事業を実施する。
- ・2 企画会議事業では、(1) 一般市民に広く定着している「やまがた夜話」を29年度も引き続き実施したい。(2) その他のイベントについては、本年度も実施してほしいと要望のある「山形大学男女共同参画シンポジウムの開催」、「小学生を対象とした体験型学習の開催」、「プロスポーツを活用した中山間地域活性化活動」の3つは実施したいと考えるが、ビブリオバトルは、27年度、28年度ともに山形大学生のみの参加であったことから、29年度はコンソーシアムの共催事業からはずした。
- ・山形講座フォローアップ事業は、新規事業となる。

平成24年度から文部科学省の補助事業で実施してきた「大学間連携共同教育推進事業」が28年度で終了したが、「補助期間終了後も継続して実施する」という補助事業に付された条件がある。

これを受けて山形人材育成委員会から、「大学コンソーシアムやまがたで継続するも

の」として、①山形講座の開設、②共同教育FDの実施、③山形地域志向型科目等の広報の3つの取組について提案があったもので、まずは単年度での事業実施を考えている。

- ・連携事業について、(1)単位互換の推進、および(2)大学等進学説明会は、連携事業の根幹となる事業であるため、29年度も実施したい。なお、5月19日に天童高校、5月31日に小国高校で実施している。
- ・教職員の交流事業について、29年度も「全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」への参加を予定する。
- ・広報事業について、大学コンソーシアムやまがたの事業及び加盟校を簡潔に紹介する「パンフレット」の印刷と、PRグッズとして「コンソーシアムの名入り付箋紙」の印刷を考えている。
- ・協力事業について、「日本一のさくらんぼ祭り」は、加盟機関の学生の参加が多く関心が高いことから29年度も協力する。
- ・事業評価について、29年度は本コンソーシアムの事業評価を行い、この結果に基づき、幹事会又は別途ワーキンググループにおいて第3期大学コンソーシアムやまがた事業計画案を策定する予定である。
- ・受託事業は、文科省の補助事業が終了したことから29年度はない。

引続き事務局から資料5に基づき、以下のとおり平成29年度収支予算(案)の説明があった。

【収入】について

- ・「機関負担金収入」は、4,318,330円。
- ・「ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金」は、昨年と同額の3,060,000円。
- ・「繰越金」は、資料2の平成28年度収支決算書の額2,371,331円に雑収入30円を加えた9,749,691円。

【支出】について

- ・平成28年度から大きく変わった点、及び前回の幹事会での案から変わった点を重点的に説明。

「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」

- ・高等教育山形宣言プロジェクトは、昨年度60万円から30万円に減額計上。
- ・企画会議事業では、ビブリオバトルを実施しないため、昨年度25万円から減額して15万円にした。
- ・やまがた夜話は28年度実績に合わせた額の25万円を計上。3月の幹事会案の20万円から5万円増額した。
- ・新規事業となる「山形講座フォローアップ事業」では、リーダーシップ教育の実施経費として30万円(講師の謝金)、共同教育FDに5万円(旅費)、山形地域志向型科目等の広報(旅費)に5万円と、合わせて40万円を計上した。

- ・「連携事業」について、単位互換の推進は、チラシ印刷費と送料の実績から昨年度 10 万円を 7.5 万円に、単位互換履修学生交通費は 28 年度実績が 661,460 円であったが、山形講座の利用者が多かったことを勘案し、利用者が減ることが考えられるため 40 万円を計上した。
- ・「教職員の交流・連携事業」について、29 年度の全国大学コンソーシアムの総会と研究フォーラムは沖縄県恩納村の沖縄科学技術大学院大学で開催されるため、1 名分の参加旅費 15 万円を計上した。(28 年度広島市 2 人分 17 万円計上)
- ・「広報事業」は、パンフレット 4,300 部 28.5 万円と、名入り付箋紙の 45 万円を計上。なお、3 月の幹事会、総会への案では 37 万円としていたが、見積を取り直した結果 8 万円の増額となった。
- ・「大学コンソーシアムやまがた運営費」について、内容の 3 番目、総会等会議開催経費で、3 月の幹事会、総会への案では 1 万円としていたが、今年度事業評価委員会の開催分を新たに見込み 3 万円に増額した。
- ・同様に事務局運営共通経費を、山形講座フォローアップ事業及び事業評価委員会の資料作成など印刷経費等の増が見込まれるため、3 月の幹事会、総会への案 50 万円から、60 万円に 10 万円増額した。
- ・「ゆうキャンパス・ステーション運営費」は、前年度繰越額を事業推進費と併せて計上していたが、29 年度は事業推進費と予備費に分けて計上した。

次いで委員長から、事業計画(案)の内容について、今年度は例年になく事業評価を行うこと、新たな事業として「山形講座フォローアップ事業」を含め、29 年度は 7 事業を行う旨の補足説明があった後、以下の質疑応答があった。

(主な質疑応答等の内容)

- 山形講座フォローアップ事業の共同教育FDの実施を企画会議で行うことになるが、第 1 回目の予定が決まったのでこの場で紹介したい。9 月 8 日(金)に山形大学小白川キャンパスで「基盤教育ワークショップ」を共同教育FDの一回目としてあてる予定である。午後に分科会を行うが、山形講座で開発した社会人力育成に関する内容を発表してもらおう予定である。後日、正式に山形大学から案内をしたい。(栗山委員・企画会議委員長)
- やまがた夜話について、開催場所が内陸中心となっているが、庄内や置賜で開催する予定はないのか。地域性も考慮して開催してはどうか。(高橋委員)
- (夜話は)ゆうキャンパス・ステーションを利用した開催事業として行っている。地域の要望や講師の了解のもとで他の地域で行うことも考えられるので、企画等を出していただきたい。なお、今年度行なわれる事業評価でも検討したいと考えている。(事務局)
- (夜話について)先ほどの報告で、山形大学と保健医療大学等の先生が講師として参加しているとの説明があったが、放送大学からも 7 回ほど参加している。ちなみに放送大学山形学習センター全体では年 24 回行っている。(席上配布資料:ゆうがく)裏表紙にある「夏休み親子科学教室(4回)」は、山形開催は 1 回のみでほかは県内各地で、ま

た「市民講座・出張市民講座」は、山形開催は4回だけでその後は県内各地で開催しており、本コンソーシアムと連携を取りながら分散して開催しているものである。(藤原委員)

このことについて、委員長から、高橋委員の質問から外れるが、山形大学の場合、米沢に工学部、鶴岡に農学部があるが、農学部では「農学の夕べ」という市民向け講座を開催するなど多面的な情報紹介がされているようである。高橋委員からの意見については、今年度の事業評価及び第3期事業計画(案)等を含めて検討したい旨の話があった。

以上の質疑応答等の結果、平成29年度事業計画(案)、平成29年度収支予算(案)について了承された。

5 ゆうキャンパス・ステーションの使用について

事務局から、**資料6**に基づき、以下の説明があった。

5月末に、山形大学地域価値創成学研究所の兒玉所長から、ゆうキャンパス・ステーションの事務室の席を一つ借りたいと資料6の内容による要望があった。ゆうキャンパス・ステーションは加盟機関の負担金で運営していることから、幹事会に諮ってから回答したいと伝えている。研究所の業務に係る機器は持ち込んでもらうことや時間外に使用する場合の管理の方法などの課題はあるが、まずは事務室使用の可否について諮りたい。

次いで委員長から、6年ぐらい幹事会に関わっているが、今回の案件は初めてである。他の機関からも同様な要望があった場合などの課題もあるが、本件について意見を伺いたい旨の補足説明があり、以下の意見交換等があった。

(主な意見交換等の内容)

- 本件がコンソーシアムの事業趣旨に合っているかを考えるべきかと思う。そのうえで、この場所の借料負担をしている大学等が事業収支に見合うのか、また、どれだけコンソーシアム事業に貢献してもらえるのかを検討して判断すべきと考える。(藤原委員)
- この研究所に使用料の負担をしてもらうことは考えられないか。(栗山委員)
→確認はとれていないが、負担できるお金がないので、ここを貸してもらいたいといっているものと思われる。(事務局)

このことについて、委員長から、藤原委員の意見にあった本コンソーシアムの趣旨に合致しているかの判断については、会則第3条の目的と資料6にある「地域に賦存する資源を新たな価値に変えることで地域に貢献することを目的として・・・」のところが一致するような、しないような感じではある。しかし、方向性が全く違うとの判断もできないため、1年間のトライアルという形で承認し、報告をもらうことにしてはどうかとの意見が出され、ゆうキャンパス・ステーションの使用を認めることとした。

【その他】

1 ゆうキャンパス・ステーションの移転について

事務局から、ゆうキャンパス・ステーションを山形県生涯学習センター（遊学館）へ移転することになったこれまでの経緯と、資料7による移転場所の説明があり、また、現時点（5月末）の情報では、実際に遊学館へ移転する時期は早くとも平成32年1月になる見込みであり、本コンソーシアムでは平成32年の4月から遊学館での活動を開始したい旨の要望を行っていること、さらに今年度中に遊学館の使用料を含んだ新たな負担金の試算を提示したい旨の説明があった。

このことについて、委員長から、遊学館の2階第4研修室、第5研修室の部分を使用する予定であること、また、移転することについては総会で了承されているもので、状況報告を行っていく旨の補足説明があり、以下の質疑応答があった。

（主な質疑応答等の内容）

○借料の80万円というのは2分の1減免措置があつてその額となっているのか。（小林委員）

→その通りである。

○県の財政当局は、県の施設を貸して2分の1減免措置する中に県立機関分の支出をしているという考え方をするとと思われる。従つて県立機関からの負担金は期待できないということと、我々も今後間接的に負担した形になるのかなと思われる。（小林委員）

以上

【配付資料】

資料番号なし・幹事会委員名簿

- ・大学コンソーシアムやまがた会則
- ・平成28年度大学コンソーシアムやまがた第2回幹事会議事録
（平成29年3月9日開催）

- 資料1 平成28年度大学コンソーシアムやまがた事業報告書
- 資料2 平成28年度大学コンソーシアムやまがた収支決算書（案）
- 資料3 監事監査に関する資料（5月24日：監事監査）
- 資料4 平成29年度大学コンソーシアムやまがた事業計画書（案）
- 資料5 平成29年度大学コンソーシアムやまがた収支予算書（案）
- 資料6 ゆうキャンパス・ステーションの使用に関するお願い
- 資料7 山形県生涯学習センター（遊学館2階平面図）
- 参考資料1 平成29年度「高等教育山形宣言プロジェクト」事業募集
- 参考資料2 やまがた夜話（5月）、（6月）開催チラシ

席上配布 ゆうがく63号（放送大学山形学習センターより）

議事録署名人

山形大学理事・副学長

伊田 弘法 

東北文教大学
教授

大桃 伸一  印

羽陽学園短期大学
教授

柏倉 弘和  印